

順天堂大学練馬病院外科だより

呼吸器外科：胸部レントゲン写真の意義

空間分解能において胸部CTの精度向上は凄まじく、肺癌診療においてはもはや胸部CTの意義は揺るぎないものとなっています。一方で胸部Xpは2Dを脳内で3D変換が必要で、撮影条件の影響も受けやすく、検診（肺結節診断）では感覚的芸術的読影が必要で敬遠されがちです。日常診療においても特に若い世代の医師は胸部Xpを撮影せず、初診患者プレゼン時に一枚も胸部Xpがない、といったことも時には経験します。

しかし、胸部Xpにも意義はあります。それは瞬時に患者の解剖学的特徴が把握できる事です。

この54歳男性のXpを見てどう感じますか？

肋骨は太く、背骨はまっすぐ、フレイルはなさそうですが、皮下脂肪が厚く横隔膜挙上、心拡大、大動脈の蛇行、弓部石灰化とメタボリックシンドロームがあり、年齢の割に心拡大が著明で心房細動があるかもしれません。こうくと診察前にOSASは？なんて疑ったりもします。呼吸器外科術後の胸部Xpはもっとダイナミックに変化します。CTと比べ肺の「含気」の評価がしやすく、一般的ではないですが「吸気呼気撮影」で横隔膜の可動性、肺コンプライアンスの評価もします。（疼痛、肺うっ血、無気肺などの影響を強く受けます）。他科コンサルト時においても胸部Xpを時系列比較するだけで、病態の総合評価が可能です。

胸部Xpはまだまだ有用な検査だと思えます。

呼吸器外科 科長 阪野孝充



心臓血管外科：足のむくみを侮るなかれ！

『最近夕方になると足がむくむなあ．．』と思われる方、いらっしゃいませんか。足のむくみは同じ姿勢で長い時間を過ごすだけでも生じますが、足の血管の問題以外にも**心臓、腎臓、ホルモンバランスの崩れ**など様々な原因がかくれている場合があります。



当科では足の静脈評価（超音波やCT検査）、動脈評価（脈波検査）だけでなく、血液検査やレントゲン検査、心電図検査、心臓超音波検査を行い、さまざまな角度から評価を行っています。

足のむくみが気になる方は、一度検査を受けてみてはいかがでしょうか。もしかしたら**思わぬ病気が**早期に見つかり、治療につなげることができるかもしれません。

心臓血管外科 嶋田 昌江



Education and Research at Mayo clinicから転載